



ふくおか [Good] 農業人100  
 主な農産物 / イチゴ

# 石川 悟さん (41歳) (営農地 / 筑前町栗田)

## コンビニ店長からイチゴ作りへ。地域の仲間に支えられて

### 《就農のきっかけ》

### 働いた分、自分に返ってくる 仕事がしたい

農業を始める前は、コンビニの店長をしていた石川さん。「コンビニは夜中の勤務もあり、子供の顔は寝顔しか見られなかった。」と当時の忙しさを振り返ります。このままこの仕事を続けるか悩んだとき、「働いた分、自分に返ってくる仕事がしたい。」という思いから農業への転身を考え、当時所属していた消防団仲間の農家に相談。「農業をするなら、経営の軸となる品目を一つ決めて栽培の方が良い。一度、普及指導センターに相談してみたら。」とアドバイスを受けた。普及指導センターからイチゴ栽培を勧められたこと、知り合いにイチゴ農家があったことなどから、イチゴ作りを始めようと決意したそうです。



プロフィール

■家族構成 / 父、母、本人、妻、子ども2人 ■前職 / コンビニ店長  
 ■営農年数 / 約10年 ■耕作(経営)面積 / 22a ■販路 / JA共販

### 《これまでの過程》

### 怒られて、そして支えられて

ハウスを建てるどころから始まった石川さんのイチゴ作り。地域のイチゴ農家の方の協力で、部会への加入やハウス建設などがトントン拍子で進んでいったそうです。一方で、農業は初めて。何も分からず、他の農家に手取り足取り色々な事を教えてもらいました。1年目は、収穫のタイミングが分からず、適期を逃して多くの過熟果を作ってしまったことも。また、集荷場で他の農家が出荷しているイチゴを見て、きれいな玉のイチゴしか出荷できないと思っていたため、ちょっと形の悪いイチゴでも破棄していたそうです。「心配して駆けつけた部会の人に『B品やC品で出せるイチゴを捨てるな!』と、ものすごく怒られて、出荷できるイチゴの形を覚えました。ここまでやって来られたのは、部会の人々の支えがあったことだ。」と、石川さんは実感しています。

### 《これからの展望》

### 自分なりの視点を大切にしたい将来設計

イチゴづくりを始めて11年目になる石川さんは、今後規模拡大を予定。それとともに、高設栽培の技術も取り入れて、将来、高齢になっても続けていけるイチゴ作りを考えています。新技術にも興味を持ち、活用できる技術には積極的に挑戦したいと意欲も十分。高校生の息子さんも、そんな父の背中に憧れて、就農を希望しています。しかし、石川さんは「息子には、親がしているからとイチゴ農家を選ぶのではなく、自分の目で色々見て、多くの経験を積んで、将来を決めてほしい。」と話します。まさならな状態から農業を始めた石川さんだからこそその視点で、息子さんにエールを送るとともに、自分の将来を見つめています。



### Good 成功のためのポイント

若手農家の会だけでなく、地域の消防団や町の行事にも積極的に参加し、周囲の人との付き合いを大切にすること。人とのつながりのおかげで、分からないことがあったら何でも素直に聞ける環境ができました。